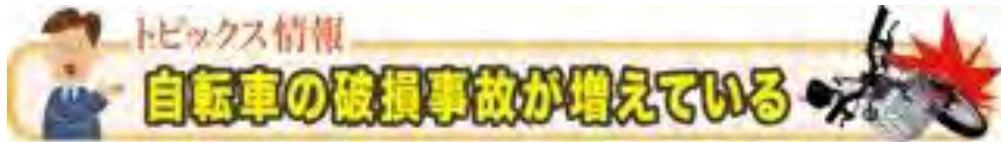
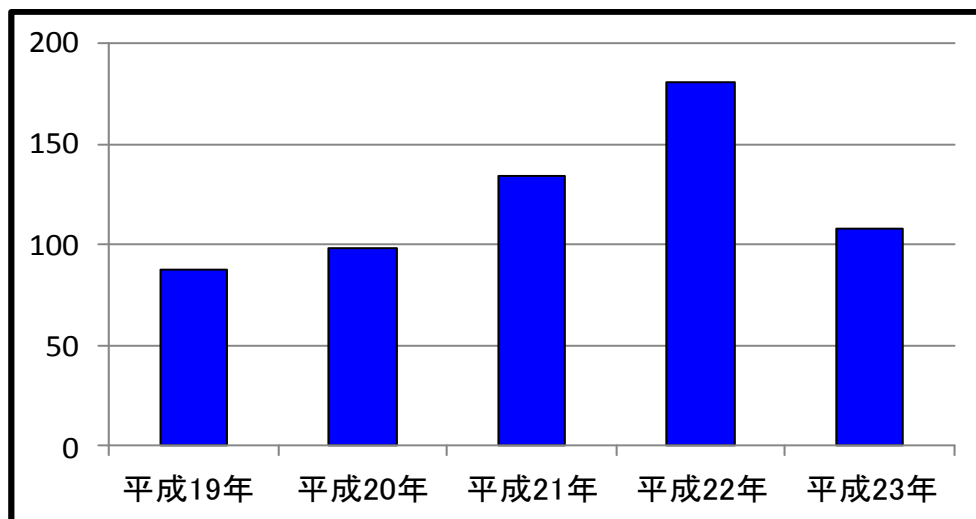


30秒でチョットした情報通になれる



自転車破損事故は消費者センターや製品安全センターに相談された件数は平成19年度から23年度までの5年間に609件ありました。以下にその相談内容をもとに「年度別事故発生件数及び被害状況」をグラフにしました。事故件数は、平成19年度から平成22年度まで増加傾向にありましたが、平成23年度においては、前年比60%に減少しています。これは、平成22年度は58件の幼児用座席による事故が発生していましたが、社告・リコールが行われ、平成23年度は8件と減少したためです。平成23年度に事故件数は減少したものの、重傷の事故は108件中44件(40.7%)と依然として多く発生しています(5年間では死亡・重傷の事故は609件中190件(31.2%))。

(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センターより)



なんで、こんなに自転車事故が増えるようになったのか？
その原因は何か？

株式会社24時間通信

〒003-0826 札幌市白石区菊水元町6条3丁目6-46
TEL 011-871-2455 FAX 011-871-2444

16年
7月号

30秒でちょっとした情報通になれる

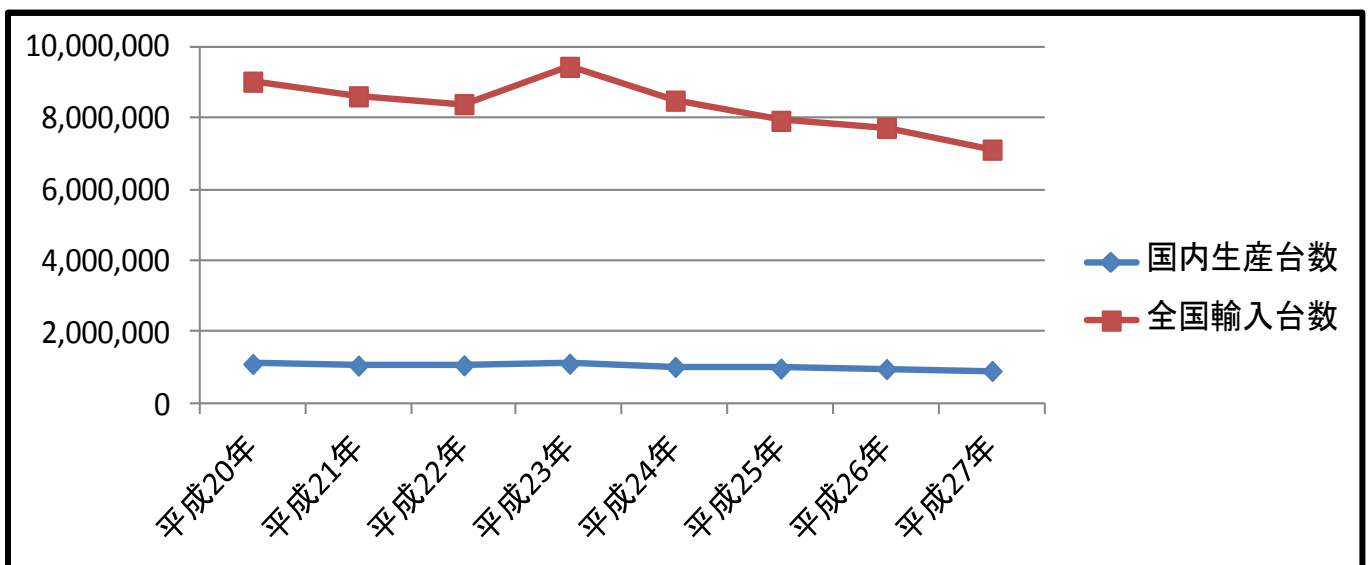


下のグラフを見れば一目瞭然です。かつては、自転車は国産品が多かったのです。

平成27年では、輸入数量が約712万台に対し国内生産量は約89万台となり、輸入品の割合が圧倒的に多い状況となっています。

自転車破損事故の原因のすべてが輸入自転車の増大とはいえませんが、最寄りの自転車で購入すれば自転車に不具合が生じた場合に修繕を依頼することはできます。

ところが最近では、輸入販売店やインターネットなどで直接輸入購入するケースが多くなっています。自転車は自動車と違って法的なメンテナンスはありません。すべて自己責任です。それも自転車破損事故によるケガが増えている原因かもしれません。



30秒でチョットした情報通になれる



トピックス情報 自転車のどの箇所が破損するのか?

自転車のどんな箇所の破損事故が多いのか?

■前ホークやハンドルが破損する

- ・ハンドルの締め付けがよわかったためハンドルがはずれて手首を骨折。
- ・前ホークが外れて前の車輪が外れて膝にケガをした

■サドル部分が破損する

- ・サドルを締めるボトルが外れ、自転車ごと転んでケガ。
- ・サドルが突然外れて、自転車ごと転んで手首を骨折した。

前ホークとハンドルが部分

サドル部分

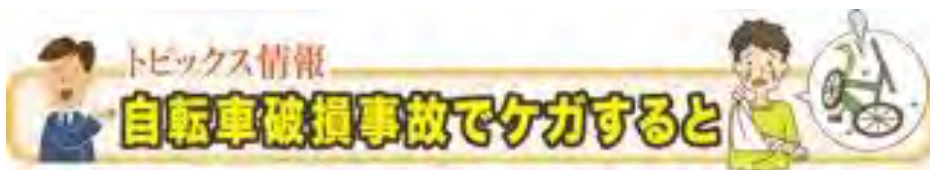
ハブ部分



■ハブが破損する

- ・組み立て型のスポーツ自転車の前車輪が外れてケガをした。
- ・走行中に同じく前車輪が外れて転倒し、打撲した。

30秒でちょっとした情報通になれる

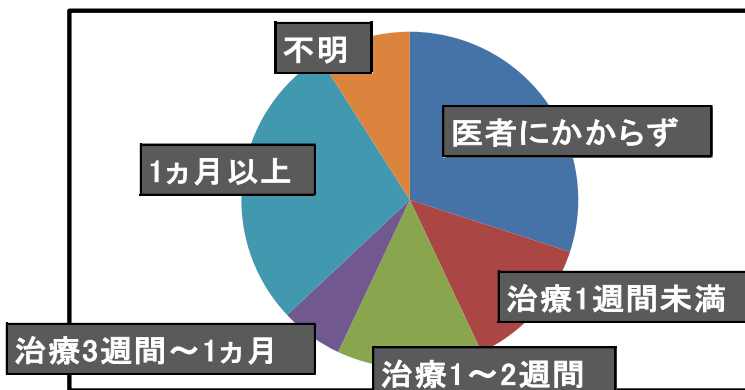


独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センターが、普通の自転車とスポーツ自転車の自転車破損によってケガした場合の治療期間のデータを提供しています。

それが下のグラフです。治療期間は1ヵ月以上が多いです。

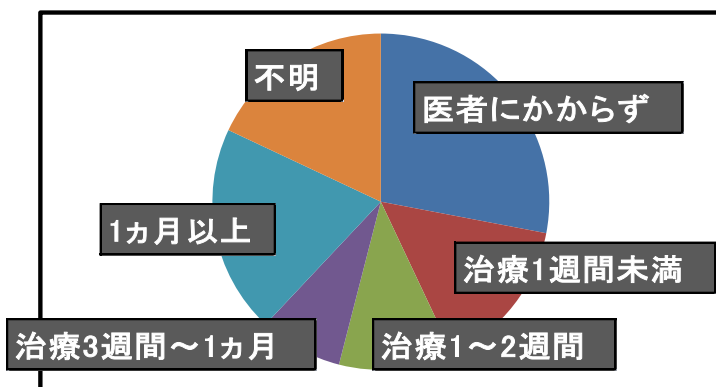
傷害内容は擦過傷・挫傷・打撲傷、骨折が多いです。ケガする部位は大腿・下腿、顔面が多いとのことです。

スポーツ自転車



医者にかからず	30%
治療1週間未満	13%
治療1～2週間	14%
治療3週間～1ヵ月	6%
1ヵ月以上	28%
不明	9%

普通の自転車



医者にかからず	28%
治療1週間未満	15%
治療1～2週間	11%
治療3週間～1ヵ月	8%
1ヵ月以上	20%
不明	18%